

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
感染看護学特論Ⅲ (感染症の診療と予防)	2単位30時間(15コマ) 講義科目	博士前期1年次 後期開講	☑・不可 「下記6, 7. 参照」
科目責任者	新改 法子		
担当者	新改 法子、福井 幸子、大西 基喜、新岡 丈典 (非常勤)、北村 知穂 (非常勤)		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> <ねらい> 感染症の予防から診療について知識を深め、確実に安全に成果を出す上で必要な感染症看護専門看護師としての役割を探究する。 <目標> 1) ワクチン接種の取り組みの実際について説明できる 2) 感染症診療について説明できる 3) 抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬の分類と特徴について説明できる 4) 抗菌薬の選択方法と耐性菌対策について説明できる。 5) デバイス関連感染症の予防および管理について説明できる。 6) 感染症の予防から診療における感染症看護専門看護師の役割について説明できる。			
<b>2. 授業計画・内容</b> 1回：ワクチン接種の取り組みの実際 (大西) VPD (Vaccine Preventable Disease) の種類、定期接種・任意接種 2回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療① 総論 (北村) 問診・フィジカルアセスメント、起炎微生物の推定と検索 (グラム染色・培養検査) 3回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療② 呼吸器系感染症 (大西) 4回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療③ 性感染症・生殖器感染症 (北村) 5回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療④ 敗血症、感染性心内膜炎 (北村) 6回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療⑤ 中枢神経感染症、感覚器系感染症、 頭頸部感染症 (大西) 7回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療⑥ 消化器系感染症、腎・泌尿器系感染症 (大西) 8回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療⑦骨・関節・皮膚軟部組織感染症 (北村) 9回：感染症の診断に必要な臨床所見と検査・治療⑧ 全身性感染症・易感染症 (造血幹細胞移植)・ 流行性ウイルス感染症・その他 (大西) 10-11回：化学療法薬の分類と特徴 (新岡) ・抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬の分類と特徴 ・抗菌薬の種類と作用機序、相互作用と副作用 ・抗菌薬の薬物動態と薬力学 ・抗菌薬の適正使用と耐性菌対策 (AST/ICT 活動) 12-13回：デバイス関連感染 (CRBSI、CAUTI、VAP) の予防と管理 (新改) 症状 (判定基準)、デバイス適応の有無と抜去の判断 14-15回：感染症の予防から診療における感染症看護専門看護師の役割 (新改、福井)			
<b>3. 教科書、参考書</b> 教科書：指定はない。 参考書： 1) 青木眞著：レジデントのための感染症診療マニュアル第4版，医学書院，2020年。 ISBN:978-4-260-03930-7			

<p>2) 操華子, 川上和美編: 看護学テキスト NICE 感染看護学, 南江堂, 2022. ISBN:978-4-524-22978-9</p> <p>3) 中野隆史: 微生物学・感染症学, 南江堂, 2022. ISBN:978-4-524-23798-2</p> <p>4) 中村 造編: ビギナーさんのための AST 活動&amp;抗菌薬適正使用ガイドブック, メディカ出版, INFECTION CONTROL 2024 年夏季増刊, 2024. ISBN:978-4-8404-8305-6</p>
<p><b>4. 成績評価方法</b> 講義・ゼミへの取り組み状況 40%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 60%で総合的に評価する。</p>
<p><b>5. 受講要件</b> 感染看護専門看護師コースの学生は必修</p>
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b> オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。</p>
<p><b>7. その他</b> 課題について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨んでください。 本科目は、一部オンライン講義を含みますが、基本的に対面による授業とします。 やむを得ない理由による欠席等でオンデマンドを希望する場合は事前に教員に相談してください。 視聴を許可した場合は、授業の概要および発問への意見をレポートにまとめて、指定した期日内に提出していただきます。授業担当者または科目担当者が学習目標に沿って評価し、目標達成が認められた場合に出席とみなします。</p>